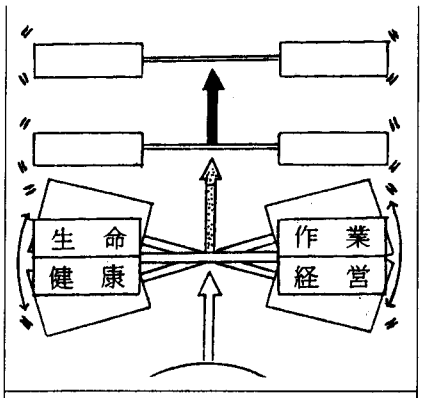
V. 健　康　管　理

数多くの「不健康状態」が
莫大な損失をもたらしています。

1.「不健康」を認識することから

(1) 乳牛の健康とは……



恒常的な向上・バランス感覚

家畜を育てるための基本原則

生命の尊厳

命そのものを敬う、そこが原点。

高位な健康状態

総合的な健康を、できる限り高く求める。

経営の向上

豊かな資産増・高い利潤・多い所得をより高める。

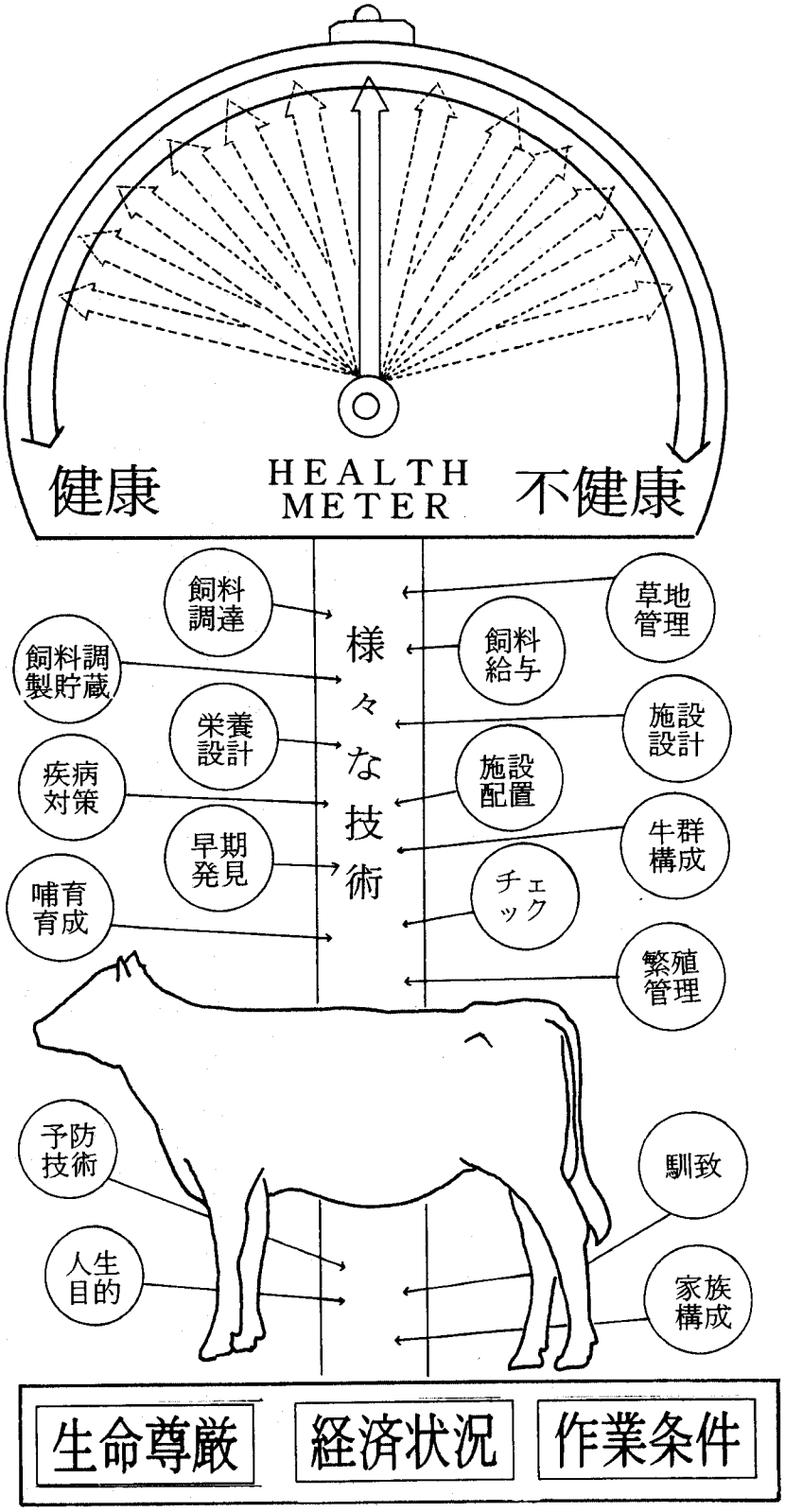
作業性の向上

量的に少なく、質的に軽く、かつ交替可能な作業を求める。

この４つの基本原則を見事に絡めたバランスが、あなたにとっての「育成牛の最善の健康状態」といい、さらにこれを高いレベルでバランス良くとることが経営技術です。

バランスの考え方やどこに重きを置くかはあなた自身の「感性」であって、感性は常に意識的に磨き続けなければなりません。

健康バランス秤



(2) より高い健康状態を求める

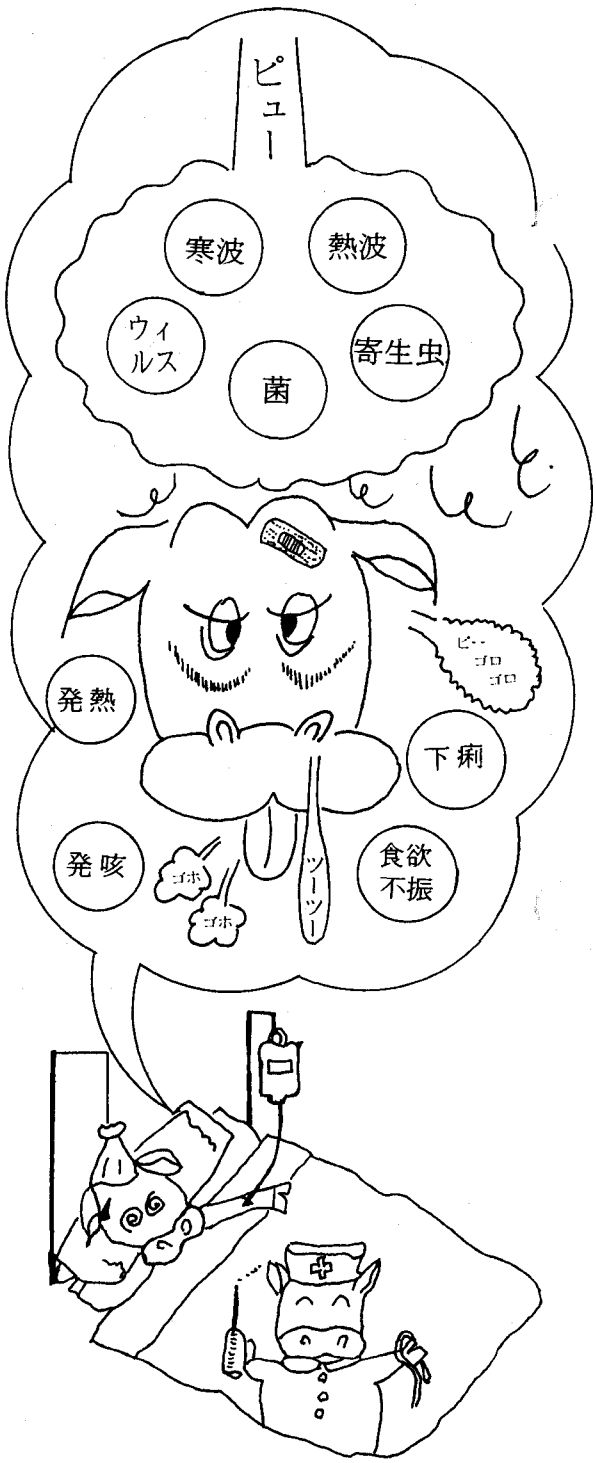
初めから何も起こさない	――不健康を起こさないための条件を整える。
早期発見・適正対処	――より軽い状態で発見し、より軽い状態で適正対処する。
適正治療・淘汰	――専門治療もするが、作業性や経済性との兼ね合いで対処する。

酪農家の多くは、誰が見ても病気だとわかるようになってから初めて不健康に気付く、或いは意識することが多いようです。しかし、それが比較的軽い状態（発育不調・下痢・発熱）であったとしても、健康な時よりは明らかに不健康なのです。そしてこれが大きな損失に全てつながります。ここの所の意味をわかって下さい。

だから先ず予防的な対策を講じる。それでも上手くいかないなら本当に軽い状態のうちに、もっと軽い状態にするための方策、それが極めて大事になるのです。常に高い健康状態を、可能な限り求め続けることが肝要です。

ダブル・トリプル　軽い不健康な状態がある時に、他の何らかのきっかけが重なると、普段なら軽く治まるような風邪や下痢でもひどい状態になってゆくのです。最初にそのきっかけとなるような体力的弱点、例えば栄養失調気味な不健康が最初にあるとウィルス感染を受けやすくなり、更にそこに細菌感染が加わり、挙句に肺炎まで…そんなダブル・トリプルの悲惨なことになるのです。これでは心も、体も、お金もダメージだらけです。経営的に困ってないからといって、わざわざ技術的向上をしなくてもよいというものではありません。できるだけ健康度合を高いレベルに向わせる、予防的発想が利潤追求の原点です。

時代の流れとともに　経営や地域が、多頭化しなければ上手くいかない場合があります。しかし作業者数が変わらず、しかも1頭毎の個体管理をしている状態ではいくら様々な作業で機械化が進んでも、舎内では手作業が多く1人に対する負担が大きくなります。その結果、利益向上の技術はわかっていても手を抜き、問題が発生し、牛が益々不健康に陥るということがあります。時代の流れや考え方や技術の方法が変わっても、今現在をどうするのか、今後どうしたいのかはあなた自身で決めることです。健康問題は世間で一般にいうところの病気だとか、病気でないとかいう単純なことではありません。



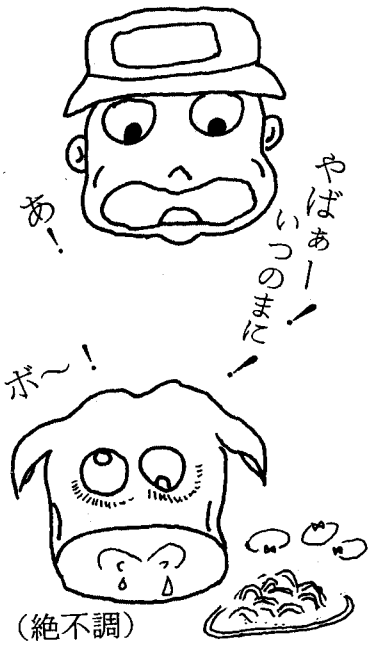
2．具体的な対策の展開

(1) 早期発見、適正対処

どんな些細な不健康状態でも、全て損失につながっています。そこでいかにより早くより軽い状態で発見し、より軽い状態で処置できるかが利益につながる発想となります。あなたの意識的な取組みが、早期発見、対処の能力を高めるのです。

たとえば下痢

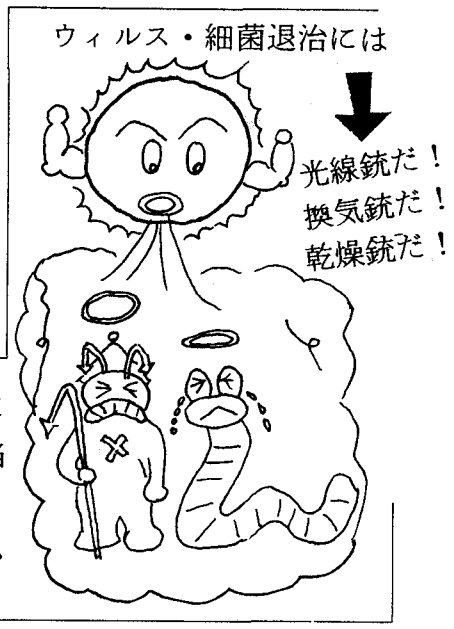
下痢というものは、病名というよりは症状と言えます。そして、多くの場合何らかの疾病の二次的な症状として現れます。しかし下痢の対処を誤まると、これ程広範な損害を及ぼす症状もありません。下痢対策は大きな損害をこうむらないために際立って大きな技術です。少しでも何かを感じ異常を見つけだす能力は、それは毎回「見るぞ」「意識して見るぞ」という目的を持った本気のチェックにより高まります。いかに早く不調を見つけて抑えられるかは、作業に流されないで「その気」になって日々管理する心が大切なのです。その経験の積み重ねが、他の人ではとてもわからないような早い段階で不調を見つけだす能力を磨くのです。



（絶不調）

下痢はそれ自体が牛を衰弱させます。特に幼牛は蓄積栄養が少ないので被害甚大になります。下痢そのものをまず抑え、そのショックを緩和することが大切な処置です。

4大問題～下痢が起こると、重大な4つの生理的問題が起こります。①脱水症状②酸血症状③ミネラル異常④エネルギー不足、これらの問題を理論的に解決する方法を誤まると、急激に牛が衰弱したり助かっても発育不良等の原因となります。下痢が始まる前に不調を見つけたなら、先ずそれを治療し次に原因を除去する。止むなく下痢に至ったら、先ず下痢そのものの科学的な早期処置を行う。補液（電解質液）の利用など、現在はかなり科学的な治療の方法が確立されています。何かといったらすぐ抗生物質といった程度の対処法ではいけません（改善資料第18集P72など参照）。脱水程度の見抜き方など理屈に合った処置法を、獣医師等によく相談して下さい。いずれにしろ治療の後、大元の理由を明らかにし、二度と同じ失敗をしないことが大切です。



絶対数を減らすキーポイント

ウィルスや菌は、ある一定期間乾燥させたり直射日光に当たることに弱いのです。ウィルスなどは特に、換気を良くし直射日光が当たることで空気中の絶対量が激減します。「絶対数を減らしておく」これが上手くいくと悲惨な状態にはなり難く、もしなったとしても一般的には簡単に軽く抑えられるものです。

(2) 予防的考え方～例えば内部寄生虫について～

虫の種類 ～寄生経路の違いや、寄生する部分の違いにより様々な種類が存在する～

コクシジウムのように虫そのものが感染するものと、ダニなどの中間宿主を介して感染する牛肺虫などがあります。寄生する部分も肺・肝臓・第四胃・腸など様々であり、腸粘膜そのものを冒し下痢を起こすものや、機能不全などで代謝障害や炎症を起こすなど二次的症状も様々です。

感染の度合 ～単独寄生か複合寄生なのか、寄生虫数や時期的なものにより症状は変化する～

一種類の虫だけが寄生しているのか、それとも数種類の虫が同時に寄生しているのか、それにより症状も重さも異なります。さらに時期的な環境の変化や、栄養的な面などとの兼ね合いからも変化します。

被害甚大 ～軽い成長の鈍化から発育不良まで、現在～将来とも大きな損失につながる～

虫に冒されることのストレスによって、食欲不振・軽い下痢・発熱や発咳などの二次的症状を現し、体調不十分で他の疾病にも罹りやすくなったり、栄養障害などが基となり様々な損失が計り知れないものに発展します。特に軽い程度のまま長引くのが、意外に大きな損失を与えるものです。何故なら重い症状は見ればわかるし、大底は何らかの処置をするからです。

定期的駆虫 ～臨時と定期な方法がある。但し、駆虫経費と予想被害額との絡み合いでどんな方法がよいか検討する～

多かれ少なかれ牛の生活環境には、寄生虫が存在しています。環境的な面と牛の状態とを、十分確認・チェックしながらの適切な駆虫は利益を約束します。例えば離乳時・群飼時・春入牧前・秋下牧後・分娩直後とか、時期をある程度決め定期的に実施することが合理的でしょう。さらに自分の農場でどの虫が特に多いのか、どのような傾向で問題になっているのかを把握しておくことがより一層効果を増します。症状などからある程度見極められるように、日頃から意識的に獣医師とよく相談することが大切です。

予防的技術 ～各種寄生虫に対する有効な駆虫剤が、かなり開発されてきているようです～

自分の農場でどのような寄生虫に、どのような条件でいつ頃被害を受けるかがわかっていれば、予防的な意味で効果的な駆虫剤利用ができます。効果的な利用のために、被害の現状確認と寄生虫に関する勉強をして下さい。

高まる利益 ～効果のある駆虫の結果により良好な発育や産乳を得られ、栄養効率の向上や育成期間の短縮が利益向上を保証する～

もちろん同時進行で他の技術が向上していれば、利益は更に増大します。多くの発育障害の根に、寄生虫問題が太く横たわっていると言われています。

比較と選択 ～実施するための手間やそれにかかる費用と、そこから得られる利益を比べる～

適確な駆虫技術を身につけ実行することが大きな利益に結びつくとわかっていても、そのための労働力や実施場所と、そのための費用を考えるとなかなか定期的に行えないのが実状です。将来的な条件整備を考えた上で大きな利益につながる可能性と、それを得るための条件を比較し、有意な方向に検討することが大切です。

3．トータルで健康問題を考える

酪農経営の基本理念

・第1に常により良き健康状態を求めることはあたりまえのことです。
・第2に常により良き経営経済を求めることは、短・中・長期各々に利潤内容の変化はあっても、それはあたりまえのことです。
・第3に一時的にはたくさんの仕事をしたり、つらい仕事を行うことは可能かもしれないが、中・長期的にはより量の少ない質の軽い作業を実現したいと思うのは、限りなくあたりまえのことです。

健康管理の極意

牛が持っている、育ちたがっている能力を経済との折り合いをつけながら、十分引き出せるような体調の維持、確保を行う。

健康度合を決める基本原則

・精神的にも肉体的にも、安心して生活できる環境を整える。
・成長に必要な栄養管理を、量的にもバランス的にも満足するよう整える。

農場の様々な条件

・経営・経済状態　・作業労働条件
・技術力・実行力　・地域的条件

考え方の違い

例え、地域、経営状態、頭数規模、作業条件が同じであっても、何を求めるか人により違います。

感じ方の違い

・意識的に少しの変化も見逃がさない心構え
・少しでもより軽い状態で適切に対処する反応力
・負担の軽い状態での処分を考える経済感覚
・ほんの少しの不健康状態でも莫大な損失につながっていると意識する感性

陥りやすい問題点

発育不良・成長鈍化・食欲不振・喰い込み不足・痩せ過ぎ・太り過ぎ・ルーメン未発達・小太り・異常な爪の伸び・軽い飛節の曲り・軽い発熱・軽い下痢・軽い咳・発情微弱・長期未受胎・元気消沈・軽い血尿・軽い血便・未経産乳房炎・粗悪性質etc…

→全て不健康につながっていることに気づいていない

骨折・超初産分娩遅延・切創・未経産牛乳房炎・初産牛四変・初産時難産・重度の肺炎・重度の下痢・急性鼓脹・溺死・圧死

→このような状態にならないと困ったことだと気づかない

トータル的な判断

全てが上手くゆくのはなかなか難しい場合もあります。しかし常により向上するために、あなたの技術開発が必要なのです。時代の変化とともに技術も変化し、考え方も変化します。いかに巧みに技術を駆使し、経営に取り入れるかはあなたの酪農に対する感性そのものなのです。